

平成19年度小林市共同実施報告書

小林市立小林小学校
校長 池田辰男

連携校名（市内全小中学校）

1 成果

平成19年度は、学校予算の有効活用や教員が子どもと向き合う時間を確保する観点から、「SSC重点戦略V」として、以下のシステムを開発・運用した。

I SSC文庫学校間回覧システム

学級単位で1セット（約30冊）にした児童図書を小学校間で毎月回覧するシステムで、今年度は、市内小学校4校（小林小、東方小、永久津小、南小）で運用している。

このシステムを運用することで、読書機会の充実と均等化及び予算執行の効率化を図ることができる。

次年度は、市内全小学校に導入する予定で、中学校への導入も検討する。

II 教育情報共有システム

市内の小中学校が所有するビデオ等の視聴覚教材のライブラリーで、地域イントラネット上で、どの学校からでも必要な教材を検索できるシステムである。

このシステムを運用することで、各学校の視聴覚教材の活用を促進することができる。

次年度は、市内全小中学校で視聴覚教材ライブラリーの運用を開始するとともに、市内全小中学校の教材教具（備品等）のライブラリーを構築する予定である。

III 文書情報共有システム

地域イントラネット上で、文書の配信、受信、保存を一体的に処理するシステムで、教育委員会が配信した文書は各学校の受信簿に登録されると同時に保存される。

このシステムを運用することで、ペーパーレス化が進むとともに、教頭や教務主任及び事務職員等の文書事務を年間約200時間削減することができる。

次年度は、市内全小中学校で文書情報共有システムの運用を開始するとともに、会議情報や報告期限情報などが日課や学校日誌にリンクするシステムを構築する予定である。

IV 児童生徒情報管理システム

MJKソフト（宮事研開発）を活用して、各種児童生徒名簿、指導要録、全課程修了者名簿、住所タックシール等が出力できるシステムである。

このシステムを運用することで、個人情報の適正管理を図るとともに、学級担任等の学級事務を年間一人当約10時間削減することができる。

今年度は、小林小学校、東方小学校、小林中学校で運用している。

次年度は、学級設営や学校行事などの際に必要な名前表示等が誰でも簡単に出力できるように、システムの全面見直しを図るとともに、市内小中学校への導入を促進する。

V 保護者負担経費総合管理システム

ソフト会社と共同で開発したSSCシステムを活用して、給食費、教材費、校外活動費、PTA会費等の保護者負担経費を総合的に管理するシステムである。

このシステムを運用することで、学校集金の適正管理を図るとともに、学級担任等の会計事務を年間一人当約20時間削減することができる。

また、保護者にとっても子どもにお金を持たせる心配がなくなるとともに、年間を見通した計画的な支出ができるようになる。

今年度は、小林小学校で運用するとともに、小林中学校では次年度の導入に向けて、準備を進めている。

次年度は、システムのバージョンアップを図るとともに、市内各小中学校への導入を促進していく予定である。

このようにして、地域イントラネットなどを活用した学校間ネットワークシステムや校務処理のサポートシステムを開発・運用することにより、学校予算の有効活用を図り、教育効果を高めるとともに、教員の事務負担軽減を図るなど、子どもたちの豊かな学びをサポートする環境が整備された。

2 課題

各学校においては、これまでに開発したシステムや今後開発するシステムを学校の規模や実態に応じた円滑な導入を推進するために、教職員の共通理解を図ることが必要である。

また、小林市においては、これらのシステムを維持管理していくための体制づくりや予算措置、さらには市内全小中学校で運用していくためのハード面の整備が必要である。

さらに、全県的には各共同実施組織で開発・運用しているシステムを全県下で共有・管理・普及していくためのネットワークを構築する取組が必要である。

なお、次年度に向けては、県費に関する事務の適正と効率化を図るため、給与・諸手当、旅費等を総合的に管理するシステムの構築やOJTの充実を図る取組も必要である。

(教育委員会の意見等)